

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 25 号

平成 5 年 3 月 1 日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬
谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

特色ある大学作りを（北里学園理事 松浦文雄）

水産学会秋季大会当番校スタッフの一人として

（水産生物化学講座助手 佐藤 繁）

職場紹介①私の会社串本海中公園センター（4A・宇井晋介）

②企画部門を担当して（6F 森田健二）

第11回北里大学同窓会講演会開催（三水会会長 長屋信博）

第20回漁火祭開催（漁火祭実行委員長 石川 真）

水族病理学研究室OB会に出席して（2A・平原健二）

Information

※平成5年度総会の開催について

※関東地区新睦会について

※卒業生の状況調査にご協力ください

※三陸でのお泊まりは夏虫山麓の「遊・YOU・
亭 夏虫」にどうぞ



第11回北里大学同窓会講演会



串本海中公園・宇井晋介氏



特色ある大学作りを

北里学園理事 松浦文雄

昭和三十七年春に発足した北里学園は昨平成四年に創立三十周年を迎えました。と同時に水産学部にとっても創立二十周年の記念すべき年でした。十一月八日相模原キャンパスで記念行事が挙行され、ノーベル賞受賞者江崎玲於奈博士の記念講演の後、簡素な中にも意気盛んな記念式典と祝賀会が催されたことを先ず皆様にお伝えしたいと思います。

西山理事長は式辞の中で、「二十一世紀に向けて国際社会ならびに成熟社会にも通用する個性的で特質ある大学へ」と決意を披瀝し、その第一歩として新たに理学部と医療衛生学部の設置を計画、順調に進捗中である旨を述べられました。

大学の充実を図るに当たっては先ず施設設備の整備が大きな仕事です。この度の記念事業にも六つの建設事業が掲げられています。近々竣工予定の十和田の学生ホール、過日地鎮祭を済ませた医療衛生学部校舎のは

か、既に完成をみた獣医畜産学部第十校舎、相模原の薬学部付属薬用植物園と学生食堂、そして三陸の水産学部第五校舎がそれです。

今、大学界は「冬の時代」を目前に大揺れに揺れています。十八才人口の急減期が遂に到来したのです。二十一世紀に入る平成十二年には現在の四分の一、実に五十万人もの減少が見込まれ、大学進学者数にしても十万人近い減少が予想されています。これは入学定員千名の大学百校分にも相当するといえ、事の重大さがお分かりであらうと思います。

このような事態に対処するため、文部省は臨時教育審議会、次いで大学審議会の答申を踏まえて高等教育の量的拡大から質的充実へと大きな政策転換を図るに至りました。それは、教育の内容や水準を細かに規定する文部省令「大学設置基準」を大幅に緩和する改正を断行したことに如実に現れています。例えば、一般

教育、専門教育などの授業科目区分の廃止など一口にいえば教育の自由化に外なりません。大学自身の責任に基づく質的充実の努力と、個性的かつ特色ある大学作りを促し、こうした生き残りをかけた大学相互間の自由競争を通じて究極的には大学教育・研究の水準を高めようとのねらいがあるようです。基本的には賛成ですが、「自由化」も節度を失えば元も粉もありません。歯止め策として自己採点・自己評価が要求されるのも当然の帰結といえましょう。

北里学園は予ねてこのことを予想し、早くから北里大学の在るべき姿について検討を重ねた上到達したのが、大学の発祥学部である衛生学部の発展的分化による理学部、医療衛生学部の二学部設置案を中心とする改革案でありました。前者は生命科学の基礎的探求の場として現存の化学科、生物科学科に新設の物理学科を加えて構成する、後者はコメディ

カル領域の職能教育と研究を担う学部として衛生技術学、リハビリテーション学と臨床工学の三学科を以て構成するというものです。

学祖北里柴三郎先生の衣鉢を継ぎ、医療を中心とする生命科学の総合大学を標榜する北里大学が、その特色を遺憾なく発揮して世界の大学に伍する日を心から待望して已みません。ところで私は昭和六十年水産学部を退職後、常任理事として学園本部に勤め、平成三年六月その職を退きました。偶々病を得て引籠りがちですが、昨秋久々に三陸を訪ねる機会に恵まれました。新校舎「マリン・ホール」竣工式出席のためです。既に「水産学部だより」十八号に紹介された通り、近代的な四つの講義室と食堂などの学生厚生施設を備えた素晴らしい建物です。長年の夢が漸く叶ったという思いは誰しも同じだと思います。これも偏に二十年一日の如き教職員諸氏、同窓諸兄姉、在学生諸君の三位一体の努力の賜です。吉浜湾を一望におさめる三階ホールの窓辺に立ってうつる風景は感無量でした。今や成年の域に達した水産学部の一層の発展を願わずにはおられません。最後に三水会の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



水産学会秋季大会当番校 スタッフの一人として

佐藤 繁（水産生物化学講座助手）

平成三年十月、水産学部に於いて日本水産学会秋季大会が開催されました。一年以上前から、教職員一丸となって準備を進めてきましたが、なにしろ大会の当番校となったのは本学部開闢以来の初体験です。例年は会場となる当番校が県庁所在地もしくは地方の中核都市にあり、その場合でも会場設営・プログラム作成・講演要旨集の作成等、大会関係者は大変なことは大変なのですが、本学部は交通不便な場所に位置するため、特に交通・宿泊担当の先生方は大変な苦勞をされたことと思います。私は秋季大会会員交歓会の担当を仰せつかったのですが、当初は、ホテルもしくは業者まかせでなんとかなるものだとたかをくくっていました。

しかし、当地では大会参加者の宿泊は釜石と大船渡に分散しているため、交通の便を考えて交歓会場は三陸駅に近い場所、すなわち三陸町公

民館ということになります。ホテルまかせという訳にはいかない。ところで秋季大会の魅力は開催地の郷土色であります。日本全国が、東京のミニチュアと化していく中で、ここは日本に残された数少ない本物の地域性を満喫できる場所です。参加者の皆様には会員交歓会で最大限に満喫して頂く、飲み物食い物の恨みは恐ろしいですよ、などと叱咤・激励されたからには交歓会担当者の責任重大であります。とにかく、アルコールと料理に關して、量も必要なら質にもうるさい会員の多い水産学会です。幸い、三陸町および三陸町のふるさと振興（サンフル）他、地元の方々の全般に亘るご協力を賜り、数ヶ月に亘る周到な準備の末、これ以上はない、と思われるほどに郷土色豊かな交歓会を催すことが出来ました。料理だけでなく郷土芸能のアトラクションも迫力満点で、他大学の先生方か

ら、素朴ながら贅を尽くしている、とお誉めの言葉を頂き、北里大学水産学部と三陸町の面目躍如となりました。準備の段階で、飲み物も食べ物も量が多すぎるのでは、と指摘がありました。が、交歓会終了時にはきれいに片づき、しかも全員が満足するという結果になりました。交歓会のみならず、このように諸々の悪条件を跳ね返して参加者八百名を越える大会を無事に、しかも成功裡に乗り切ることができましたのは、大会委員長の高橋先生および顧問の平野先生の万全のご配慮と、卒業生および地元の方々のご支援あつての賜物と考える次第です。

ところで私は昭和五十九年一月に水産学部赴任し、今年で十年目になります。十年ひと昔、と言いますが、あつという間に過ぎ去ったように思えます。赴任当時は卒論生とあまり年齢差がなかったのですが、気がついてみたら干支で一回り年上に

なっていた、というところでしょうか。私の所属する水産生物化学研究室は、児玉教授・緒方助教授をはじめ大学院生・卒論生ともに相変わらず夜討ち朝駆け？朝駆けの方はあまり自信が無いのですがともかく月火水木金金の生活が続いています。卒論も仕上げの時期にさしかかり、やった、今日は暗いうちに帰れる（注 明るいうちではない）、などと言う卒論生のジョークが実はジョークではないようなことも多いこの頃です。

一研究室当たり平均二十五名を越えるメンバーには、手狭に感じられた研究室でしたが、昨年、新校舎の竣工に伴ってスペースを拡大させていただくことが出来ました。いままで当研究室は第一校舎の一、二階に分離していたのですが、全て二階に移動し、二階を食品化学研究室と分ける形となっています。研究室によつては全室とも移動したところもありましたので、卒業生の方が何年かぶりに来られた場合には戸惑われるかも知れませんが、是非ご来学をお進め致します。

〈職場紹介〉①

私の会社 串本海中公園センター

宇井 晋介（4A）

最近急にマスコミでもてはやされるようになった水族館が私の職場です。私の勤めております串本海中公園センターは、本州の南の端にあたる串本町にあります。串本町は民謡串本節でも有名な町で、漁業の町であるとともに四季を通じて温暖な気候に恵まれた風光明媚な観光地でもあります。

串本の海では、世界でも最北端にあたるというテーブルサンゴの群棲



和歌山～沖縄八重山郡島のサンゴ調査にて
（高知県大月町にて）－左端が筆者－

地が随所に見られます。

昭和四十六年日本で最初の海中公園がここに誕生しましたが、この素晴らしい海中景観を少しでも多くの国民に紹介しようという趣旨で設立されたのが、現在の株式会社串本海中公園センターです。ここには水族館、グラスボート、海中展望塔、レストラン、研究所があり、さらにスクーバダイビングで海中探勝ができるダイビングセンターが併設されています。どんな人でも、ここに来れば海中公園の海を色々な形で探勝できるといわけです。

私の所属する職場は、その中の学術部という部署です。学術部と言うとかにもいかめしい所と思われるがちですが、実際の仕事は水族館での生物の飼育、採集、研究と言うのが中心で、併設されています財団法人鎗浦海中公園研究所の仕事として海洋生物に関する様々な潜水調査も行っています。

最近の水族館ブームに乗って、こ

こ数年多くの水族館への就職希望者がやってきます。そういえば最近放映されたテレビドラマに、水族館がモデルになったドラマがありました。ところでその中で出てくる美女の女性飼育係員たるや、まるでパーティーへでも行くような大きなイヤリングや指輪をつけ、最新モードの洋服にハイヒールといういで立ちで、さっそうと出勤して来たのです。これにはたまげました。最近の水族館は昔と違ってオシャレな水族館に生まれ変わり、デイトスポットのナンバーワン候補にも名前を連ねています。展示も一昔前とは比較にならないくらい奇麗で、以前は考えられなかったような生き物たちも続々登場するようになりました。ですから、そこで勤めれば、毎日オシャレでトレンドディーな仕事ができると思えるのかも知れません。

もちろん、水族館にも魅力的な女性はいます。でも実際の水族館での仕事は、オシャレとは少々程遠いものです。魚達の餌も全て自分達で作るため、魚の匂いが嫌なんて言われるかもしれません。生き物が死ねば葬ってやらねばなりません。漁師さんから珍しい生物を貰うために、朝早くから網干し場も回ります。寒い冬の日

でも、掃除や採集の為に水に入らねばなりません。私達の会社では、学術部の事を「裏方さん」と呼びますが、その言葉が全くびったりあてはまる職場だとも思います。表の華やかなイメージとのアンバランスは、働いてみた人間にしかわからないでしょう。

しかし、同時に良いところ、楽しいところも数多くあります。まず何と言っても、海に接していただける職場であるということ。口の悪い友人は、「好きなときに海に潜れて、毎日が遊びみたいなものだ」と言いますが、確かに思えばいつでも潜れることは、海好きな人間にはこたえられないかもしれませんね。また、生き物の好きな人にとっては、毎日生き物と触れ合える事が羨ましいことかもしれません。生き物が相手のため、夜中でも呼び出されたりすることはありますが、苦勞して集め展示した生き物にお客さんが感嘆の声をあげてくれたときには、疲れも吹っ飛んでしまいます。そして、最後は私服で仕事できること。三陸の素晴らしい自然の中でのびのびと青春時代を過ごしたからでしょうか、就職以来どうもネクタイが大の苦手で、すぐに息苦しくなってしまう

す。GパンとTシャツで仕事ができる会社、そんな私の寿命を必ずや延ばしてくれると確信しています。

もっともスーツだって着ることがあるんですよ。ただし、当社の場合にはスーツと言え「ウェットスーツ」の事ですけれども……！

こんな最果ての地にある串本では、いわゆる都会の遊びはできません。でもその分自然相手の遊びには事かきません。休日は、北釣会のOBとしての名を汚さぬよう毎週必ず出漁

〈職場紹介〉②

企画部門を担当して

私が勤務している(株)東京久栄は、塩田の取水事業からスタートしたエンジニアリング会社です。創業から三八年目を迎えた現在は、社員数二七〇名で主に海水取水や水産施設の設計・施工を担当する建設エンジニアリング部門と環境の調査、分析、予測、評価や水理実験を行う環境部門の三分野に分かれて事業を実施しています。

北里大学の卒業生は、現在のところ糸永真吾(2A、8I)、牛木智伸

(?) しています。今は、ボートでのトロリーングとキャスティングゲームに夢中です。ここの海には、カジキ、シイラ、カツオ、ヒラスズケetc. それこそ何でもいるのですが、現在は魚を愛する北釣会のOBらしくキャッチアンドリリースならぬヒットアンドリリースを一番の得意技としています。皆さんもくれぐれも貴重な自然を大切に。

またお近くにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

森田健二(6F)

(4F)、望月由美(22P)、堀部昌弘(17F)、深井貴聡(17F)、押尾圭美(21I)と私を含めて総勢7名に過ぎませんが、社内結婚により誕生した北里二世の数では間違いなく最大派閥を築いております(これは全て薬学部と衛生学部の卒業生の力によるものです……)。

北里大学と当社の関係は、薬学部の膳教授と現副社長が慶応大学の同級生であることに端を発しています。このため、薬学部または衛生学部か



左から押尾、堀部、牛木、糸永、森田、望月

らはほぼ毎年卒業生の入社があるものの、水産学部の卒業生は私以降長らく途絶えていました(私の評価には関係ありません?)。それが、昨春は一気に二名の卒業生を迎えることができ、今後は一世においても最大派閥を築くべく、決意を新たにしているところであります。

さて、会社紹介ということですが、業務内容をもう少し具体的に説明したいと思いますが、深井を除く六名は環境部門に勤務しています(彼だけが特別という訳ではありません)。水産学部の卒業生はその専門性を活かして海洋調査部の生物調査や分析関係の部署に配属されます。以下に各部署の特徴を紹介します。

海洋調査部の主要業務は発電所、港湾施設、ゴルフ場建設等に伴うアセスメント調査並びにモニタリング調査と報告書作成です。全国津々浦々の名所、名物、銘酒を堪能しながら生物の勉強が出来るという極めて恵まれた環境にあります。報告書作成という卒論作成にも似た苦しみがありますが、時として新種や新事実の発見という機会に恵まれることもあり、生物好きにはこたえられない職種として根強い人気があります。

分析課は生物分析と化学分析の二部門に分かれています。生物分析ではプランクトン、卵稚仔、ベントス、魚類などの同定、計測の他に培養、毒性試験や行動実験等を行っています。

また、最近では有用バクテリアの検索・培養なども実施しており、一部については水産学部酒井先生との共同研究も実施しています。勤務しながら博士号を取得する社員も増えつつあり、博士号とるなら生物に！という標語も生まれています。一方、化学分析では各種水質、底質項目の分析を行っています。近年ではハイテク産業、ゴルフ場等から排出される物質や農薬などによる汚染が広がっており、環境基準に追加される

項目も大きく増加しました。この結果、増える分析機会に足の踏み場もない状態で、最近では立って食事をするのが上手くなったとの評は……ありません。

さて、一人建設エンジニアリング部門に配属された深井は、水産技術課に所属しています。ここでは全国各地の水産試験場と栽培漁業センターの設計、施工や近年有望視されている沖合養殖施設の開発等を行っています。回りは全て設計、土木関係の人間ばかりという環境ですが、元西海区水産研究所所長の水戸敏朗間や前岩手県水産試験場場長大野賢二顧問という重鎮に支えられ、背の高さでは負けていません。

現在は折からの環境ブームと海外工事の増加により、会社の業績も

「第十一回北里大学同窓会講演会開催」

紅葉の美しい三陸キャンパスで昨年の十月十八日、第十一回北里大学同窓会講演会が開催されました。

この講演会は、大学の四つのキャンパスを順次めぐって開催しているもので、今回はムツゴロウさんこと

順調に拡大しつつあるため、この不況下にもかかわらず日常業務は多忙を極めています。しかし、健全な労働組合の存在により、既に一〇年以上前から完全週休二日制を実施し、フレックスタイム制度も試行中にあるなど、労働条件は比較的恵まれているものと考えています。最後に私の所属する企画部門で担当している当社の今後の展望を紹介しながら筆を置きたいと思っています。

(株)東京久米では、創業以来培った海洋工技術と海洋調査研究の実績を基に、浅場・藻場造成や海水利用施設、水質浄化護岸の設計、施工に取り組み、沿岸生態系の創出を基礎とした環境創造事業に邁進することで、微力ながら地球環境の回復・保全に役立ちたいと考えています。

三水会会長 長屋 信博

畑正憲氏に講演をいただきました。今回は、山形弁を話す外人タレントとしてテレビ、ラジオ等で幅広く活躍されているダニエル・カール氏を講師に、「ボクが触れたすばらしきニッポン」というテーマで開催しま



講演中のダニエル・カール氏

した。

会場は九月に完成したばかりの水産学部の第五校舎（マリンホール）をお借りし、「漁火祭」に合わせて開催しました。会場のマリンホールからは紅葉の美しい吉浜湾が一望され、講師のカールさんもその眺めに感激されていました。

カール氏はアメリカ・ロサンゼルスで生まれ、高校時代から交換留学生等として何度か来日し、日本でバリエティーに富む生活体験をされました。大学を卒業後、すぐに来日し、山形県で三年間英語教育に従事され、トレードマークの山形弁もこの時身

につけられました。

講演の内容は、言葉や生活習慣、文化の大きく違う日本で仕事をし、生活した講師が、その中で触れた日本独特の言いまわしや風習を驚きをもって見たことを、山形県時代の体験を中心に話されたものでした。

「何もありませんが」「つまらないのですが」といった謙遜の言い回しや、「顔が広い」「足が出る」「腹が立つ」等、英語に直訳してもさっぱり意味の解らない言葉に出合った時の戸惑い等をユーモアたっぷりに話され、会場は最後まで笑いに包まれていました。普段私たちが、何の躊躇もなく使っている言葉や習慣が外国の人から見ると大変奇異に感じられていることがたくさんあるんだなあということが実感として気づいた思いがしました。講演は、国際化時代で外国の人々と接する機会が多くなっていく中、理解しにくい風習や言葉については説明をつける等のやさしさを忘れないで欲しいという言葉で締めくくられました。

講師をお引受けいただいた三陸町さん、ご協力をいただいた三陸町、水産学部、漁火祭実行委員会の皆様、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

第二〇回漁火祭開催

漁火祭実行委員長 石川 真

昨年の十月十七、十八日の両日、天候に恵まれ、紅葉の山々や真っ青な海の美しさに引き立てられたキャンプバスで第二十回漁火祭が開催されました。

初日は、児玉学生指導課長の開催の挨拶で開幕し、この日のために六月より練習を重ねてきた体育会百余名による大漁踊りが近隣のアピールに出発しました。初日のキャンプバスでは、なんでもダービー、三輪車レース、大声コンテスト、チャリティーバザー等、オリジナリティー溢れる模擬店や、環境生態学、水産増殖学、基礎生産学、水産微生物の各講座等が、数週間前から準備に取り組み工夫を凝らした展示もあり、見学者を楽しませておりました。この

他、腕相撲、屋外ライブは大変な人気を博していました。また、二日目に同窓会との共催により開催した、ダニエル・カールさんによる記念講演会には三陸町をはじめ地元の方々もたくさん参加され、独特の山形弁での講演は大盛況でした。後夜祭では、ビンゴ大会、女装コンテスト等

が行われ、異様なまでの盛り上がりとなりました。今回の漁火祭は、企画、展示等充実したものとなりました。しかし、一般学生の参加が少なくいま一步の盛り上がりには欠けたことは来年度への課題となりました。

最後に、多大なご支援を賜りました先輩の皆様にご心からお礼を申し上げます。

水族病理学研究室OB会に出席して

平原 健二(2A)

一期生から十七期生が参加した病理学研究室OB会

卒業して、もう十六年
ただ変わらないのは小林教授のよ

うな気がしました。でも少しやつれた。授業熱心なのは、昔のまま……。二時間の予定の抗議を三十分も延長して下さいました。その短くとも本当に長い時間の中で、学生生活を過ごした三陸の生活を思い出す事ができました。

真すぐに突っ走っていたあの頃、そして友達、仲間、ひとり一人の顔が走馬燈のように自分の脳裏を駆けめぐり、そう、それは本当に先生の声がなつかしく思われたからです。

懇話会も和気あいあいに、思い出を短く語りながら自己紹介が始まりました。でも、なんとなく、今日集まった卒業生の人達は、なにかと小林先生に、御迷惑を、おかけしている人だけの集まりのような気がしました。でも、自分だけは違うと心の中でつぶやいていた、だって三陸の優等生だったから。最後まで。

本当に、みんないい顔をしていた。でも、誰でも心はひとつだと思おう。それは病理学教室の卒業生だと言う事、そして誰でも小林先生にお会いしたかった事、そして友達、仲間、そう、一番嬉しそうな顔をしていたのは小林先生

ひとり一人の自己紹介にて、ひとり一人の目を見つめ、そしてひとり



一人の思い出を思い出し、かみしめ、うなずいていらした先生。

そんな先生を、見つめているだけで来てよかった、参加してよかったナーと思う今日この頃です。

いつまでも、卒業生を忘れない、そんな小林先生に……乾杯！

飲んで語って、楽しく語って飲んでそして、君達がいって、僕がいた。

そして、そのあとは、そう内緒……。一家団欒、そんな雰囲気な病理学研究室のOB会だった。

そう、一家団欒の水族病理学研究室の、OB会でした。

From 事務局

平成5年度総会の開催について

下記により平成5年度総会を開催いたします（会員は傍聴できます）。

〈開催日時〉平成5年5月16日（日）11:00～

〈開催場所〉北里大学薬学部E号館8階 801会議室（白金校舎内）

〈協議事項〉平成4年度事業報告・決算、平成5年度事業計画・予算、その他

関東地区親睦会について

毎年開催しております関東地区の会員を主な対象とした親睦会を、今年は7月31日（土）の開催予定で現在内容を検討しています。企画が固まりましたら、関東地区（東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨）在住者には案内状をお送りしますので是非ご参加ください。なお、関東地区以外の方で参加をご希望の方は事務局までご連絡ください。

From 水産学部

“卒業生の状況調査”にご協力ください

卒業生の皆様お元気でしょうか。常々、在学生並びに大学に対しひとかたならぬご厚情を賜り感謝しております。今年も三水会の協力を得て“就職ガイダンス”を去る1月14日に行いましたが厳しい状況を認識して皆熱心に聞き入っておりました。

水産学部では、第5校舎「マリンホール」が昨年9月に完成しましたが、この中の学生ホールからの眺望は絶景です。一度来学され在学時の思い出にひたってみては如何がでしょうか。

さて、学生課では、在学生の就職選択の情報提供、会社向けの資料作成等を目的として、今回初めての試みとして同封の葉書による調査を三水会の協力を得て実施することといたしました。後輩たちは先輩方の生の情報を頼りにしております。年度末ご多忙のところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

From 三陸町

“三陸でのお泊まりは夏虫山山麓の「遊・YOU・亭 夏虫」にどうぞ”

三陸町では、名峰五葉山を背に、眼下にリアス式海岸を望む夏虫山高原の裾野に、宿泊、コテージ、レストランを備えた「遊・YOU・亭 夏虫」を昨年4月にオープンし、町とふるさと振興で共同経営しています。天然素材・気仙杉で造られた当亭には、木肌の温もりの中で鹿肉、鮑、ウニ等の本格的料理が楽しめるレストランと、木立の中で漁火を眺めながらゆっくりと休んでいただけるお部屋とコテージがあります。

三陸にお出での節は、どうぞご利用ください。

三水会会員の特典として、会員並びにご家族は下記金額から1,000円割引させていただきます。

宿 泊 料 (お一人様、 1泊2食付)	本 館	バス付 9,800円 バス無 9,000円
	コテージ	バス、トイレ付 9,000円

※本館客室5室（17名収容）コテージ4棟（20名収容）

ご予約、お問い合わせは下記へお願いいたします。

TEL：0192-44-3711

住所：気仙郡三陸町越喜来字小出59-1



毎号ご好評を得ております三陸の味については、下記あてお問い合わせいただければ資料をお送りいたします。ワカメ、ホヤ、ホタテ、塩ウニ、鹿肉等揃えてお待ちしておりますのでご連絡ください。

〈問合わせ先〉「三陸町ふるさと振興(株)」TEL 0192-44-3241 FAX 0192-44-2883